

はじめに

「何が生き残るのか。最も強いものが生き残るのではない。最も賢いものが生き残るのでもない。唯一生き残るのは、変化できるものである。」

これは、進化論を説いたイギリスの自然科学者チャールズ・ダーウィンの言葉です。変わり続けるものだけが生き残るという生態学上の普遍の真理を述べています。

上野高校も変わります。百十余年の歴史と伝統に安住することなく勇気をもって変わり続け、「卓越した教育を行う学校」として進化する。それが上野高校の新たな伝統です。

校長 東 則尚

—卓越した“上高スタイル”を続けます—

上野高校には、「卓越した教育を行う学校」として、他校にはあまりみられない独自の取組がたくさんあります。その一部を次に紹介します。これらは“上高スタイル”として継承します。

「自彊不息」 学習における“上高スタイル”

- 教員は休み時間には教室や廊下で授業開始のチャイムが鳴るまで待機しています。生徒はチャイムが鳴る前に授業の準備を終え、着席して出席点呼を待ちます。
- 授業の開始と終了のチャイムとして、1982（昭和57）年に生徒が作曲した音楽が流れています。
- 生徒は教室や自習室、廊下の自習机などお気に入りの場所で自分のペースで勉強に取り組んでいます。
- 質問があれば職員室に駆け込みます。所属学年に関係なく、積極的に質問できる雰囲気できています。
- 生徒は、スクール手帳（上高では「スクルテ」と称しています。）を片手に日々のスケジュール管理を行い、学習ペースを担任の先生に確認してもらいます。
- 半世紀以上の歴史を持つ英語と数学の習熟度別授業は少人数で行います。
- 音楽と美術は最大10単位分の授業が受けられます。（県内の「進学校」では最多）
- 全ての授業を対象に生徒授業アンケートを年2回実施し、その結果を教員が授業改善に活用しています。
- およそ4人に1人の生徒が国公立大学に現役合格しています。

「文武両道」 学校生活における“上高スタイル”

- 女子生徒も男子生徒も制服をルールどおりに格好良く着こなしています。
- 職員室等での入退室のあいさつ、廊下や教室でのあいさつを大切にしています。
- 昼休みは45分間でゆっくりと食事をとることができ、心にゆとりを生んでいます。（県内の「進学校」では最長）
- 全校生徒の97%が部活動に参加し、毎年様々なクラブが全国大会や東海大会に出場しています。
- 吹奏楽部とギター・マンドリン部は地域の音楽文化振興の母体として進化し続けています。
- 文化祭は3日間あります。特に、半世紀以上の歴史を持つ合唱コンクールには、全クラスが出番直前まで練習を重ねて臨み、素晴らしい歌声を披露します。
- 保育所、幼稚園、小学校、中学校、老人ホーム等との交流も盛んに行っています。
- 将来の伊賀地域の教育を担うべく、毎年30人弱の教育実習生を受け入れています。
- 三重県指定有形文化財である本館第一棟（明治校舎）のH A Q U Aホールでは、音楽会、演劇発表会等が行われ、文化芸術活動や交流の場を在校生や地域の方々に提供しています。

—新たな“上高スタイル”を築きます—

上野高校は、「卓越した教育を行う学校」として更なる進化を遂げるため、来年度（2016年度）から新たな仕組みと取組を始めます。これらは、新しい“上高スタイル”として確立していきます。

I 授業の単位時間を50分から65分に変更し、毎日あった90分授業もなくします。

このことにより、

- 週4日の部活動の開始時刻が20分早くなり、午後4時から開始できます。
- 放課後の個別面談や個別指導の充実を図れます。
- 週当たりの授業時間が10分増えます。
- 教員は、これまでできなかった授業の空き時間を利用した会議を開くことができ、放課後は生徒への指導時間が増えるなど、ゆとりを持って業務に専念できます。

II 3学期制を改め、2学期制を導入します。

このことにより、

- 年間200日程度の授業日数が10月上旬で前期と後期に2等分され、各学期に3等分できていない3学期制のデメリットを解消します。
- 約8週間分の授業の後に中間・期末テストを行うことができ、ゆとりある授業計画が可能となります。また、65分授業の実施と相まって、生徒の能動的・協働的な活動を重視する「アクティブラーニング型授業」を行う最善の環境が整います。

III 授業開始時刻を8時40分から8時45分に繰り下げます。

このことにより、

- 伊賀鉄道利用生徒、バス利用生徒の実情に合わせ、1限目の授業開始にゆとりを与えます。
- 早朝からの補習、個別面談や個別指導が実施しやすくなります。

IV 「進学型キャリア教育」を本格的に導入します。

このことにより、

- 大学卒業後の職業生活・社会生活を見据え、「なりたい自分・あるべき自分」を探求し、目的・能動的に学習する態度を身に付けた「自立した学習者」を育てます。
- 大学卒業後の自己の在り方・生き方を見据え、「大学合格のため」から「自分の夢と志の実現のため」へ、さらには「他者の幸福や社会の発展に貢献するため」へと学習目的を進化させ、「受験勉強は夢と志を実現するための手段、大学は通過点」と考え、利他の精神で人々に貢献する「本物の人材」を育てます。

このような「自立した学習者」「本物の人材」を育てるため、これまでの進学指導に関する手厚い取組に加え、次のような取組を新たに進める予定です。

- 地元の企業・行政機関等各方面の協力を得て実施する、生徒主体の「進学型インターンシップ」
- 「本気の大人」との出会いを体験する「夢人インタビュー」、「社会人白熱教室」、「大学人白熱教室」等
- 地元の行政機関・商工会議所等各方面の協力のもと、地域の新しい魅力を創造発信する「地域活性化活動」
- 豊富な蔵書を誇る上野高校図書館と連携するなどして取り組む「UENO夢レポート」「UENO夢論文」の作成・発表
- 中学校別のブースを設けて先輩から後輩に上高の良さを伝えるなど生徒主体で実施する「高校生活入門講座」等